

日本の芸術発展と欧州の関係紹介

八戸

放送大学青森学習センター（石川善朗所長）は8月27日、八戸市のユートリイで、同センター開設30周年、八戸サテライトスペース開設20周年を記念した公開講演会を開いた。学生ら82人が青森県出身で同大特任教授の青山昌文氏の講話に耳を傾け、日本がヨーロッパの芸術を自国の文化に

取り入れた歴史などを学んだ。



「芸術・日本・ヨーロッパ」と題して講演した青山昌文氏

放送大学青森学習センター開設30周年 青山特任教授が講演

同センターは1993年、同スペースは2002年に開所。昨年は新型コロナウイルスの影響で記念事業を実施できなかったため、今年に合わせて行った。美学、芸術学、比較思想を専門とする青山氏は「芸術・日本・ヨーロッパ」と題して講演。日本が明治時代、ヨーロッパの芸術を主体的に受け入れ、発展させられた理由については、「日本が高度文明を持つ独立国家だったから」などと説明した。（松橋瑠偉）